

# 季刊 GPW 通信

第 16 号 2020 年 秋

## 目次

ごあいさつ	P1
イベント報告	P1
お知らせ	P3
自慢のガイドヘルパー紹介 特別編	P3
トピック	P5
会員報告・寄付を募ります	P7
最後に	P8



映画「警女」ポスター

## ごあいさつ

理事長 高橋和哉

日本各地で 40 度を超える異常な暑さが続きました。また、高温多湿に弱いとされていたウィルスがいまだに猛威を振るっています。無節操に開発を続ける私たち先進国の人間の仕業でしょう。

先進国のリーダー達がエゴやイデオロギーを捨てて、一致団結し知恵を絞り、このような感染症が発生しないよう緩やかな持続可能な開発にかじを切って欲しいものです。

話は一気に身近なものに移りますが、GPW は NPO 法人格を取得して 5 年経過しました。青年海外協力隊経験者が集まって始めた頃は、途上国就学困難児童支援を行っていました。法人格を取得し障害福祉を始めた当初、職員は私を含めて 2 人でした。ろくに給料も払えませんでした。2 年経って何とか給料を払えるようになり。職員は 4 人に増えました。ガイドヘルパーも 30 名近くになりました。

今のコロナ禍でも事業を続けることができる体力がついたのも活動を応援してくださっている皆様を始め、利用者の皆様のお陰です。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

皆様に、もう少し法人のことを知っていただきたく今回は、法人の役員をトピックで紹介させていただきます。

## イベント報告

### 1. 高齢視覚障害者のストレッチ教室

第 1、第 3 火曜日の 10 時～11 時 45 分、ゆうゆう今川館で開催しています。毎回、8～9 名の視覚障害者の方々が参加しています。酷暑にもかかわらず 8 月 18 日には、9 名の当事者が参加しました。3 密を防止するため一部のガイドヘルパーには部屋の外で待ついただくことに



ストレッチの様子

なりました。ストレッチだけでなく呼吸法も大切にしているので、参加者はマスクの代わりにマウスガードを装着しています。また、すぎなみはつらつ体操も取り入れて、皆さんで楽しみながら健康づくりを行っています。ゆうゆう今川館が開いている限りは、コロナ対策をしっかり行って開催を継続します。

## 2. 楽しくいちからフランス語

毎月第 2 土曜日の 13 時 30 分～15 時頃まで行っています。現在は事務所を拠点にして、ZOOM を活用して開催しています。8 月 8 日（土）は、フランス語が達者な島本禎子さんに参加していただき、丁寧にフランス語を教えていただきました。9 月 12 日（土）は、狭い事務所を出て、民間の会議室を借りて開催しました。新しい方が 2 人加わり、フランスから日本語ができないフランス人も参加し、本物のフレンチコミュニケーションに挑戦しました。

遠方の方も参加できるチャンスです。



高山聖子さん

## 3. ドレミファン！（Do. Re. Mi. Fun!）

延び延びになっていましたが第 9 回は、9 月 30 日（水）14 時～16 時に開催します。コロナの影響でピアノ生演奏のカラオケ大会に代わり、プロハープ奏者の高山聖子さんをお迎えしてハープとピアノの小さな音楽会を開催します。この音楽会の様子は次回の通信で報告します。第 10 回は、11 月 30 日（月）を予定しています。

## 4. 社交ダンス

2 月 13 日に開催したのを最後に、約 5 か月間休んでいましたが 7 月 23 日から再開しました。コロナを正しく恐れるべく教室は換気をし、フェイスガードを装着して踊っています。

熱心に教えてくださる持田先生には本当に感謝です。

社交ダンスを継続することが難しい世の中になりました。皆さんの熱意がコロナを吹き飛ばしてくれることを願って継続しています。



少し異様ですが

9 月から第 1・第 2 木曜日（13 時 15 分集合 15 時 15 分頃まで）に開催することになりました。

全てのイベント参加される方に下記のことをお願いいたします。

1. 当日、入室の際、体温チェックにご協力ください。
2. 室内では、マスク着用での参加をお願いいたします。

換気、社会的距離に配慮いたしますのでご協力をお願いいたします。

日時・場所などの変更があった場合ご連絡いたしますので、全て申し込み登録をお願いしています。興味がある方はお気軽にお問合せ・お申込みください。

連絡先は 03-4285-9727 です。お待ちしております。

## お知らせ

### ・フランス語を勉強しながらフランス料理、お菓子を作りましょう！

延期してこの秋に開催予定でした。しかし新型コロナウイルス感染が収まる様子もないので今年度は、中止にしました。日本盲人福祉委員会の助成事業として認可を頂いたのですが残念です。次年度もこの内容で日本盲人福祉委員会に助成申請しますので、開催できる環境が整うことを願っています。

### ・杉並区議会議員有志と「ユニバーサルデザインのまちづくりと視覚障害」

ZOOM 会議の形式で、8 月 3 日（月）19 時から杉並区議会議員の方々と 2 回目の勉強会を開催しました。ユニバーサルデザインのまちづくりと題して話をさせていただきました。

バリアフリー、ユニバーサルデザインの概念をお伝えし、ハード整備だけでなくソフトが大切なことをお伝えしました。

ユニバーサルデザインのまちづくりの成否のカギは、もちろん当事者の存在ですが、次に大事なのは地元自治体の姿勢です。地元自治体が国に頼らず独自に UD を進められるよう今後も区議の方々と活動を共にしたいと思っています。

3 回目は、交通事業者の BF の取り組みを紹介しようと考えています。

## 自慢のガイドヘルパー紹介 特別編

同行援護事業所アンサンプルの管理者兼サービス提供責任者（サ責）の橋本です。

前号までに 8 名のガイドヘルパーを紹介してきましたが、今回は新しいガイドヘルパーが入った時の実習の内容とその実習に協力してもらっている 40 代のふたりの視覚障害当事者を紹介します。

通常、ひと月にひとり入ってくればありがたい新人ガイドヘルパーですが、このコロナ禍の 7 月は、同行援護従業者養成研修を修了したばかりの男女 4 人と契約できました。彼らの実習に協力してくれたのは、ふたりの藤井さんです。ふたりは、橋本が運営委員をしている日本視覚障害者団体連合（通称：日視連 旧：日盲連）の同行援護事業所等連絡会が主催する資質向上研修（当事者コース）を受講しており、同行援護の制度や当事者の心理などの講義だけでなく、ガイドヘルパーが研修で習う基本的なガイド技術の実技も学んでいます。

まずは、ふたりの自己紹介です。

### 藤井水絵さん

杉並区在住です。網膜色素変性症です。高校生の頃から自覚症状がはじめて病気が判明しました。大学在学中に見え方が急激に悪化し白杖歩行するようになりました。その後、障害者枠で就職しましたが更に眼の状態が悪くなり退職しました。

数年経って高橋さんと出会い色々情報を頂き、支援センターでの訓練や活動を経て、現在は希望に近い仕事をやっています。



藤井水絵さん

現在わずかに視力は残っているものの、通勤や慣れた場所以外への外出にはガイドさんが欠かせません。

この実習の手伝いを始めたきっかけは、ガイドヘルパーの研修を受けた方が実践的な技術を身につけるため視覚障害当事者から教えてもらう必要があるということを知り、橋本さんからお聞きして自分でも役に立てるならと思い、始めました。

実習の時に心がけていることは、皆さんの自信につながるよう良いところ・出来ている部分をきちんとお伝えすることです。

それと同時に、一番大切な事はガイドヘルパーは利用者の眼であることです。何かを決めたり判断することを代わりにしてしまわないことを強くお願いしています。

また、ワンランク上のガイドヘルパーになって頂くには、スマホの使い方を熟知することだと思っています。私たち視覚障害者もスマホを使いますが、検索することやその検索結果を取捨選択することは瞬時にできません。外出時にそれをガイドヘルパーさんがやっていただくと、より一層助けになると思います。

私ももちろん、利用者さん皆さんが気兼ねなく外出できるようこれからも実習頑張らせていただきます。よろしくお願いいたします。

#### 藤井実都江さん

相談支援事業所ういと同行援護事業所アンサンブルに利用者としてお世話になって3年ほどになります。途中で全盲になった私にとって、命のかけ橋と言える存在です。現在、就活中で社会の厳しさにも直面していますが、旬の美味しい物や楽しい事を探しながら過ごしています。そして、アンサンブルのガイドさんのデビュー前の実習のお手伝いをさせていただいています。今は人と人との間に距離が必要な世の中になってしまいました。本来の意味は違うのでしょうけど、人間と読めると気づきました。物理的にも心理的にも近づき過ぎず、離れ過ぎない距離。人と人とのふれ合いにおいては、とても大切な事だと実感しています。実習では、心が温かいみなさんは、全ての手伝いをするのではない事に驚いている様子も見られます。ガイドさんにとっても難しい距離感ですよ。真剣に向き合うみなさんから力をもらっています。ガイドさんの存在が私たちの生活を豊にしてくれているとも言えるのです。



藤井実都江さん

再び、橋本です。実習のポイントは2つです。1つ目は、未知なるガイドヘルパーとしての外出支援時の不安を取り除くことです。階段の昇降、エスカレーターの昇降、電車の乗降と座席への誘導を自信が持てるまで繰り返し練習します。ふたりの藤井さんは、嫌な顔せず根気よく付き合ってくれるので、とても助かります。2つ目は、「ガイドヘルパーは眼の代わり（視覚情報の提供）であって、脳（判断）の代わりや動作の代わりをしない。」です。トイレの個室で実習すると養成研修で習ったからなのか、「まず、流すところとペーパーの位置を教えます。」と声掛けをさせていただきます。この時点で、「便座がキレイか、トイレットペーパーがあるか」という視覚情

報の提供をせずに、この便座を使うものと判断を代わりにしています。買い物をすると、レジで Suica を持っている右手を誘導してタッチさせることは、動作の代わりになります。空いている左手をタッチする場所に導いて本人にタッチしてもらうのが眼の代わりです。ふたりはその指摘するポイントに敏感なので助かります。

実習を終えて、ガイドヘルパーの仕事をししばらく経験したら、ふたりの藤井さんのガイド依頼を担当してもらいます。その際は、仕事に就いて困ったことや不安なことの相談に、優しくアドバイスしてくれる、アフターサービスまでバッチリのふたりの藤井さんの紹介でした。

## トピック 役員の紹介

当法人の役員は、理事が 5 名、監事が 1 名です。

まずは、この 7 月から新たに理事に加わっていただきました地元の当事者である田村昇さんです。特筆すべきは、60 代にして点字を習得したことです。

この度 理事に就任した田村昇と申します。生まれも育ちも杉並区。66 才 一級の視覚障害(全盲)です。私は定年退職するまで晴眼者でした。悠々自適の年金暮らしのつもりが自己免疫性網膜症という謎の病に罹り 2 年ぐらいで今の状態になりました。

文字通り右も左も分からない時に支援計画を立ててくれたのが高橋さんでした。

若松河田の東京視覚障害者生活支援センターに通い、右や左がなんとか分かるようになった頃、引きこもらないようにと出かけるきっかけを探していました。そして、また高橋さんに誘われて、森さんのストレッチ体操に出会いました。「障害者だって、もっと生活を楽しみましょう。」という話に納得でした。

先日、杉並区民で障害当事者の意見を取り入れたいから理事になってくれないかと声をかけられました。自分の事で精一杯ですが、日頃何気なく文句を言っていることを何気なくではなく、少し本気で言えばいいのだなと勝手に解釈してお受けすることにいたしました。

何かお役に立てることがあれば、自分ができる範囲でやっていこうと思っています。どうぞよろしくおねがいします。

次に、任意団体であった時の責任者であり、グローイングピープルズウィル名付け親の宮沢一朗さんです。常に前向きで、周りを動かすことのできる優秀な方です。

昭和 43 年 12 月 22 日生まれ 杉並区出身です。

高校と大学生活は剣道に費やし、教師になるために教職員資格を取り、大学卒業後は青年海外協力隊の理数科教師としてケニアの地方の高校に赴任しました。その後、教育開発学の修士号を取得するためアメリカのコロンビア大学へ進み、帰国後、教育コンサルタントとして、



田村昇さん



宮沢一朗さん

インドネシア、フィリピンの教育プロジェクトに参加しました。31歳の時に UNICEF（ユニセフ）のタンザニア事務所の職員になり、その後、ミャンマー、バングラデシュ、パキスタンに赴任し、恵まれない子どもたち・若者の教育機会拡充に従事しました。現在、UNESCO（ユネスコ）バンコク事務所にてタイ、ミャンマー、ラオス、インドネシアで教育プロジェクトを実施しています。ICT と Data を使用した教育革新が現在の主な仕事内容になります。

どんな環境に生まれても、一人一人の能力を高められる教育や手法を模索しています。今後ともよろしくお願いいたします。

宮沢さんと同じく、GPW が任意団体の時から活動をしていた監事の横倉一賀さんです。盲導犬のように寡黙で独特なオーラを放っています。

東京江戸川区の質屋の長男として生まれました。高校の時、洋楽が好きで当時ミュージシャンがアフリカの飢餓を救う活動に影響受け、青年海外協力隊に参加、ケニアに派遣され高橋さんや宮沢一朗と出会いました。

帰国後、有機野菜などを扱う「らでいっしゅぼーや」という流通会社で 11 年世話になり、その後取引先の有機農家に転職して群馬で田舎暮らしを始めました。東日本大震災後に都心に住む母と一緒に居たくなり前の会社に出戻りました。

12 年ほど前、T シャツを売って感謝の心広げ、経済的な理由で学校に行けない子供たちを救うという一朗くんのプロジェクトに参加しました。それがグローイングピープルズウィルの始まりです。

海外に行って日本の武道を見直し、空手、その後中国拳法、今は心身統一合気道を習っています。合気道気圧法認定指導者、霊気ティーチャーなどヒーリングとリラクソスの伝道師でもあります。今は有機野菜を広め、環境と土を次世代につなぎ、健康を広めることが人生の目的になっています。こんな人間ですがよろしくお願いいたします。



横倉一賀さん

最後に、高橋實です。

私は去る 7 月 26 日に創刊 5000 号を迎えた『点字毎日』に 1960 年から 1986 年まで「盲人記者」として勤めていました高橋實です。

定年後は、1954 年に自身の大学進学した時から取り組んでいる「盲人の新職域開拓」などの問題解決のために大阪から上京しました。

1987 年杉並区に日本初の盲学生情報センターを開設し、その後当センターの事業を拡大して名称を視覚障害者支援総合センターとし、1996 年社会福祉法人格を取得しました。主な事業は、盲大生の学習支援や職域開拓のための雇用運動でした。地方公務員・教員採用・司法試験・国家公務員試験などに点字受験を認めさせることができました。その結果、各種資格試験にも点字受験が導入されるようになりました。

また、視覚障害音楽家の社会参加を促進する「競い合い、助け合うコンサート〜はばたけ視覚



高橋 實さん

障害音楽家たち」の開催や若い視覚障害者の社会貢献を願って、全国から男女一人ずつを選ぶチャレンジ賞（男性）、サフラン賞（女性）を創設しました。

2017 年 大役を辞して大阪に戻りました。

私に取り組んだことは全国的なもので、地域の視覚障害当事者と向き合っただけの仕事はありませんでした。その点、GPW は地域に根差した活動をしていることに賛同し、理事の末席を汚しております。

近い将来、視覚障害当事者が安心してくつろげる施設の実現を目指して努力し、皆様と共に喜びを分かち合うことができればと微力を払っていきたくと考えています。

皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

日頃より皆さんと顔を合わせています森尚子と高橋和哉は割愛させていただきます。

## 2020 年度会員・賛助会員 報告

日頃より、GPW の活動にご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。2020 年度会員は 9 月現在、正会員 17 名、賛助会員 54 名です。今年度も半ばに差し掛かりましたが、2020 年度の正会員、賛助会員を募っています。どうぞよろしくお願ひします。

当法人は障害者も高齢者も住み慣れた地域で豊かな生活を送るための支援を行っています。一人でも多くの方々が支援に参加して下さることを願っています。

会員の方には、GPW 通信を年に 4 回（季刊）定期的に発行し、活動報告をさせていただいております。「正会員」と「賛助会員」の 2 種類があります。「正会員」は、法律上の社員となり、会の構成メンバーとして総会での議決権を持つ等、会の運営に参加していただく方々です。また、「賛助会員」は、会の目的に賛同し賛助していただく方々で、いわば、会の活動を側面から応援をしていただく方々です。会員の区分により、年会費は次のとおりです。

◎ 正会員 5,000 円

◎ 賛助会員 1 口 3,000 円

郵便振替 口座番号 00110-5-696178

口座名 NPO グローイングピープルズウィル

## 寄付を募っています。

2020 年度は、聖明福祉後援会様、本間律子様、東恵子様、竹村郁様、社会福祉法人桜雲会様、藤岡葉子様、土田為子様、井山克子様、佐藤泰清様、高橋実様、堀長生様、川井田仁様、太田三奈子様、酒井久江様、須田希様、風呂田和枝様、匿名の皆さまから寄付を頂いています。ご支援をありがとうございました。

当法人では、高齢視覚障害者のためのストレッチ教室、社交ダンス、音楽を媒体とした集いの場や視覚に障害があってもわかりやすいフランス語教室、料理教室などのイベントを行っています。福祉制度にない活動が実は利用者にとって非常に大切です。このような活動を安定的に継続し更に充実したものにしていくため、皆様のご理解とお力添えを必要としています。寄付をお考えの方のご連絡をお待ちします。

## 最後に

この GPW 通信音声版の読者の方から「あの声は誰ですか？写真の説明が上手ですよ。」とのご質問をよくいただくようになりました。

ボランティアで音訳をしてくださっている田中ゆきこさんを紹介したいと思います。

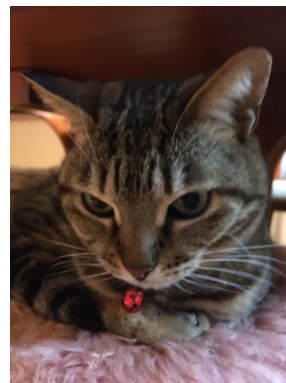
田中ゆきこです。介護生活が突然終わり茫然自失の毎日から脱却して音訳を始めました。始めて 5 年位経ちます。絵や写真、グラフ等もっと分かり易い説明ができるよう、日々勉強中です。時々、音訳中ににゃんこが、邪魔・・通称猫ハラ（スメント）に入るのは困ったものです。

不器用なので手芸は不得意ですが、着物を着るのが好きで茶道も始めました。ガサツなので先生に怒られてばかり。お茶だけでなく、おちゃけ（酒）も好きで、日本酒やワインも嗜みます。その為、太ってきたのでランニングもしています。ちっとも痩せないのはその後の麦酒がやめられないから・・ですよ。分かっちゃいるけどやめられない・・これからも宜しく願いいたします。

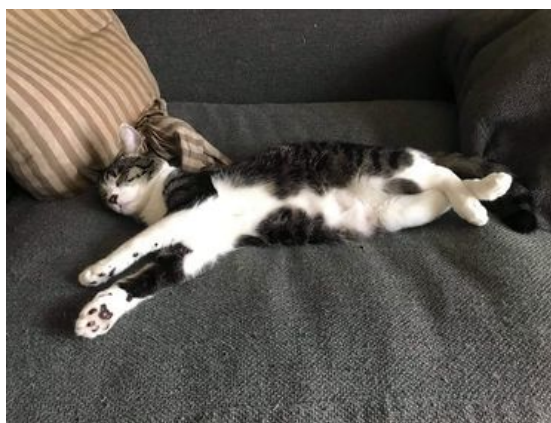
今回は、当法人に関わる方々を紹介させていただきました。あいさつでも書かせていただきましたが NPO 法人になった当初、関係者は数名でした。当然のように賛助会員はいませんし、寄附金もいただけませんでした。お陰様でこの 4 年間で信用が増し、関わる方も大きく増えました。

これからも誰もが自分の能力を発揮できるような環境を作り、誰もが気軽に支え、支えられる社会を目指していきたいと思っています。

この通信は、音声版でも発行しています。音声版を希望する方は、当法人までご連絡をお願いします。



田中ゆきこさんのにゃんこ



足を組んで寝ている猫のしまちゃん

季刊 GPW 通信 第 16 号 (2020 年秋号) 2020 年 10 月 1 日発行

発行者 特定非営利活動法人グローイングピープルズウィル 理事長 高橋和哉

〒167-0042 東京都杉並区西荻北 2-2-16 オーシャンアート 202 号

URL : <http://gpw.sakura.ne.jp> Tel 03-4285-9727. Fax 03-4285-9727